

テモテ  
第二  
①

# 「信仰者の 苦難の意味」

テモテへの手紙第二 1章 挨拶と奨励

# アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. 挨拶と神への感謝 1～10節
- II. 福音への従順と苦難 11～21節
- III. まとめと適用

クリスチャンの

苦難の意味を知ろう



ローマ時代の地下施設

## テモテへの手紙第二とは？

■ 著者 …使徒パウロ。

■ 宛先 …エペソ教会を指導中のテモテ

■ 執筆時期・場所 …不明

使徒の働きの文脈に位置づけるなら…

→パウロが、ローマに移送された後？！

■ 目的 …牧会書簡(テモテ、テトス)  
牧会上の実践的な助言。励まし。  
パウロからの別離の手紙。



## テモテとは？

- アジア州のリストラ出身。
- 父はギリシャ人。母はユダヤ人。  
祖母ロイスと母ユニケより信仰を受け継ぐ。  
幼い頃から聖書教育を受けた。
- 第二次伝道旅行のパウロと出会い、同行する。
- パウロの信頼厚く、残留したり、派遣されたり。  
6つの手紙をパウロと共同執筆(コリントⅡ、  
ピリピ、コロサイ、テサロニケⅠ・Ⅱ、ピレモン)





I. 挨拶・神への感謝 テモテ第二 1章1～6節

ローマのコロッセオ

## 挨拶 愛する子テモテへ テモテ1:1~2

神のみこころにより、またキリスト・イエスにあるいのちの約束にしたがって、キリスト・イエスの使徒となったパウロから、愛する子テモテへ。父なる神と、私たちの主キリスト・イエスから、恵みとあわれみと平安\*がありますように。

■パウロが使徒職にこだわるのは、主ご自身がパウロを使徒とされたから。

\*ギリシャ式挨拶(恵みを) + ヘブル式挨拶(平安を・シャローム) + あわれみ

➔パウロの使用は、1テモテ1:2とここだけ。



## 挨拶 神への感謝 テモテ1:3~4

私は夜昼、祈りの中であなたのことを絶えず思い起こし、先祖がしてきたように\*、私もきよい良心をもって仕えている神に感謝しています。

私はあなたの涙を覚えている\*ので、あなたに会って喜びに満たされたいと切望しています。

\*イスラエルの先祖。

➡パウロは片時も自分のルーツを忘れない。

\*パウロは、捕らえられる覚悟でエルサレムへ。

エペソ近くで長老たちと会う(使徒20:17)



エペソ

## 勧め 継承された信仰 テモテ1:5

私はあなたのうちにある、偽りのない信仰を思い起こしています。その信仰は、最初あなたの祖母ロイスと母ユニケ\* のうちに宿ったもので、それがあなたのうちにも宿っていると私は確信しています。

\*信仰の伝承は母方から。➡父はギリシャ人  
アジア州のリストラが、テモテの出身



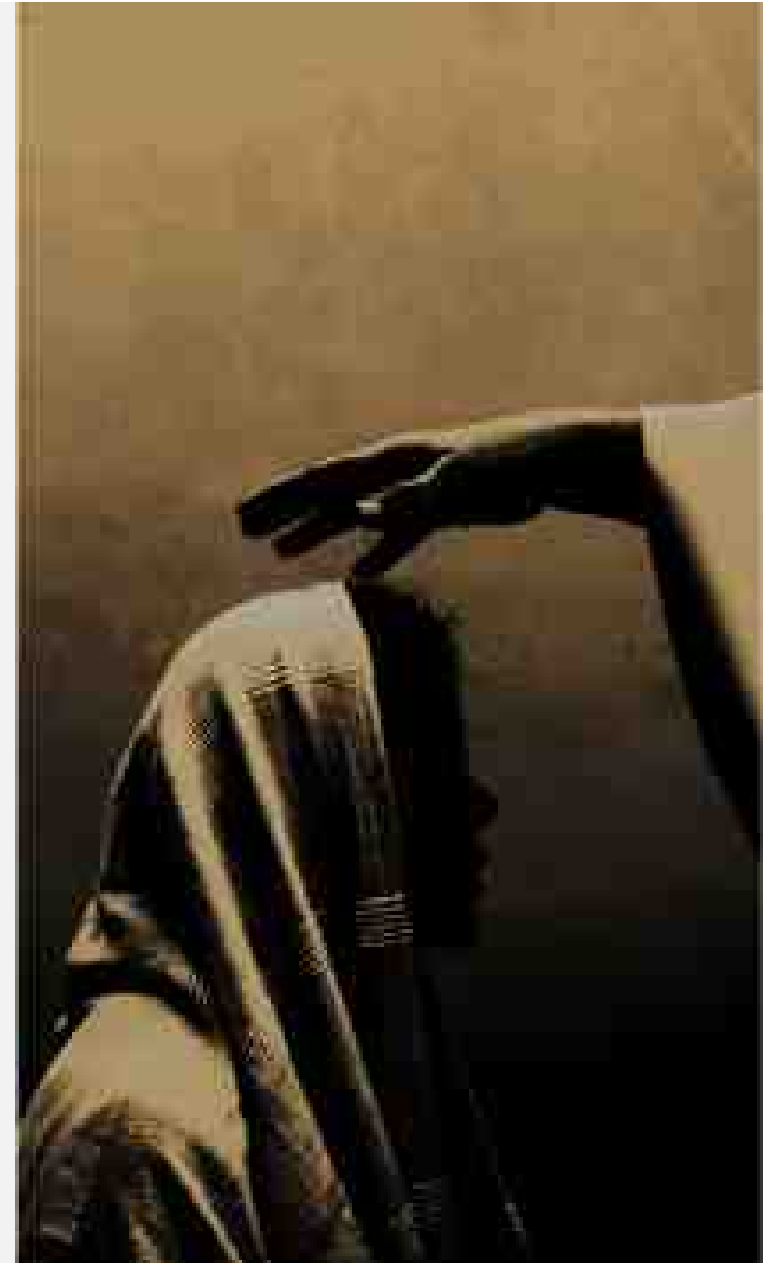
トルコの山間部



## 勧め 神の賜物 テモテ1:6

そういうわけで、私はあなたに思い起こしてほしいのです。私の按手によってあなたのうちに与えられた神の賜物\*を、再び燃え立たせてください。

\*長老按手の際、預言を伴って与えられた。  
教える賜物?! (1テモ4:14)





## Ⅱ. 福音への従順と苦難

テモテ第二 1章7～18節

ローマ近郊の遺跡

## 勧め 聖霊によって テモテ1:7

神は私たちに、臆病の霊ではなく、力と愛と  
慎み\*の霊を与えてくださいました。

\*思慮分別、自制、真面目…。このみ。

➔知識をもって教えることの大前提。

■力、愛、慎みは、聖霊の特性。

➔内住される聖霊が、信仰者の力の源泉。



## 勧め 主の囚人 テモテ1:8

ですからあなたは、私たちの主を証しすることや、私が主の囚人\*であることを恥じてはいけません\*。むしろ、神の力によって、福音のために私と苦しみをともにしてください。

\*信仰のゆえに獄中にいたパウロ

\*「私は福音を恥とはしない(ローマ1:16

「マルコ8:38 だれでも、このような姦淫と罪の時代にあって、わたしとわたしのことばを恥じるなら、人の子も、父の栄光を帯びて聖なる御使いたちとともに来るとき、その人を恥じます。」

**福音を恥じるか、誇るか、二者択一**



## 告白 キリストにおいて テモテ1:9~10

神は私たちを救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、**ご自分の計画と恵みによる**ものでした。この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられ、今、私たちの救い主キリスト・イエスの現れによって明らかにされました。キリストは死を滅ぼし、**福音によって**いのちと不滅を明らかに示されたのです。

- 主の計画と恵みにより、  
ただ、キリストの十字架と復活の福音を信じる信仰によって、私たちは救われた。



## 勧め パウロの使命 テモテ1:11～12

この福音のために、私は宣教者、使徒、また教師\*として任命されました。

\*パウロ自身の使命について明確な自己認識

■主に与えられた自分の使命、働きをどこまで明確に認識しているか？

→具体的な行動の結果として認識される



パウロの召命

## 勧め パウロの確信 テモテ1:12

そのために、私はこのような苦しみ\*にあっています。しかし、それを恥とは思っていません。なぜなら、私は自分が信じてきた方をよく知っており、また、その方は私がお任せしたものを、かの日\*まで守ることがおできになると確信しているからです。

- 信仰者は、理解しがたい苦難\*に遭うが、恥じて隠す必要はない。
- 苦難を予告された主イエスが、再臨の日\*まで主に従い、遣わされる信者を守り導かれる。



## 勧め 守るべきは御言葉 テモテ1:13~14

あなたは、キリスト・イエスにある信仰と愛のうちに、私から聞いた健全なことば\*を手本にしてください。

自分に委ねられた良いもの\*を、私たちのうちに宿る聖霊によって守りなさい。

- 信者は、与えられた主の御言葉\*を内住される聖霊に助けられ、守っていく。





## 勧め 離れた者たち テモテ1:15

あなたが知っているとおりに、アジアにいる人たち\*はみな、私から離れて行きました。その中にはフィゲロとヘルモゲネがいます。

\*アジア州(トルコ)。州都がエペソ。

➡アジアからローマに来た人々?!  
パウロの投獄でつまずいた?



## 勧め オネシポロ テモテ1:16~17

オネシポロの家族\*を主があわれんでくださるよう。彼はたびたび私を元気づけ、私が鎖につながれていることを恥と思わず、ローマに着いたとき、熱心に私を捜して見つけ出してくれました。

\*本人は亡くなり、家族が残された?!

■ 囚人としてローマに移送されたパウロに、危険をおかして会いに行ったのだろう。



## 勧め 主の日の希望 テモテ1:18

かの日\*には主が、ご自分のあわれみをオネシポロに示してくださいのように。エペソで彼がどれほど多くの奉仕をしてくれたかは、あなた自身が一番よく知っています。

\* 苦難のただ中の信仰者の希望が、主の再臨

■ 宣教旅行で最長期間滞在したのがエペソ。

成果と同時に、厳しい迫害にも遭遇した。

→ 心血注いだ奉仕者の一人がオネシポロ



### Ⅲ. まとめと適用

クリスチャンの苦難の意味を知ろう



ローマのコロッセオ

## キリスト者の救いと派遣の唯一の根拠

「神は私たちを救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、**ご自分の計画と恵み**によるものでした。

この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられ、今、私たちの救い主キリスト・イエスの現れによって明らかにされました。

キリストは死を滅ぼし、**福音**によっていのちと不滅を明らかに示されたのです。テモテ第一1:9~10

**召命は神の計画と恵みによる。恵みとは、キリストの福音**

## 福音のために遣わされる者には苦難がある

「この**福音**のために、私は宣教者、使徒、また教師として任命されました。

そのために、私はこのような苦しみにあっています。しかし、それを恥とは思っていません。なぜなら、私は自分が信じてきた方をよく知っており、また、その方は私がお任せしたものを、**かの日**まで守ることがおできになると確信しているからです。 Ⅱテモ1:11~12」

主イエスの再臨こそ、苦難の中にある信者の希望の礎

## 苦難を驚き怪しむな

愛する者たちよ。あなたがたを試みるために降りかかって来る火のような試練を、何か思いがけないことが起ったかのように驚きあやしむことなく、

むしろ、キリストの苦しみにあずかればあずかるほど、喜ぶがよい。それは、キリストの栄光が現れる際に、よろこびにあふれるためである。

Ⅰペテロ 4:12~13 【口語訳】

**主を愛する者には試練がある。希望は栄光の主イエスにある**

## クリスチャンの苦難の意味

- 私の罪のため十字架で死んで復活された、主イエスの福音を信じて救われたクリスチャンには、世にあっては苦難がある。
- 罪を犯した結果の懲らしめなら、主に告白して悔い改めたらいい。主に従ったゆえの苦難なら、恥とせず、ただ主に信頼すればいい。
- 私の試練も、世の苦難も、一時だけの束の間のももの。永遠の平安を築かれる、再臨の主イエスこそが、私たちの希望。

**主の計画に信頼し、主の恵みをひたすら味わい知って行こう**



## ★ 私の苦難の意味は、ただ主にたずね求めよう ★

- 私に与えられる苦難は、すべて、主と私の中の特別な体験だ。  
苦難の意味は、共におられる主イエスが聖霊によって教えられる。
- 自分や他者の苦難によって、つまづくことのないよう祈り求めよう。  
愛する子とされた確信を、むしろ強め育むことができるように。
- 苦難を恥とせず、愛する兄弟姉妹と、その体験をも分かち合うなら、  
主が、深い恵みと憐れみと平安をもって、互いを満たしてくださる。

**分かち合える兄弟姉妹の存在が、私に力を与えてくれる**

「天のお父さま。わたしは、あなたに背き、罪を重ねてきました。  
日々犯してしまう罪をも告白します。この罪をゆるしてください。

わたしは、神のみ子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

主は、愛する子とされた私に、世にあって試練を与えられますが、

世の終わりまで、主イエスが私と共におられ、支え導いてくださいます。

悔い改めるべきは悔い改め、委ねるべきは、ただ主の御手に委ねます。

苦難を恥じることなく、主の約束と恵みを分かち合ってくださいように。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」